

## 11. わびの精神

日本の<sup>でんとうぶんか</sup>伝統文化という、まず<sup>さどう</sup>茶道を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。  
<sup>さどう</sup>茶道というものは言うまでもなく、作法に従ってお湯を沸かしてお茶を入れて飲むことを指します。茶の<sup>げんさんち</sup>原産地は中国で、中国では相当古くからお茶を飲む習慣があったようです。日本でお茶を飲む習慣が本格的に始まったのは、<sup>ぜんそう えいさい</sup>禅僧の栄西が 1191 年に留学先だった中国からお茶の種と苗木を日本に持ち帰ってからだと言われています。

お茶ははじめ<sup>たいへんきちよう</sup>大変貴重で薬用として使われていたようですが、お茶の<sup>さいばい</sup>栽培が広がると、お茶を飲んで楽しむという習慣が徐々に武士の間でも流行するようになりました。そして、16 世紀後半までに現在まで伝わるお茶の作法が整えられました。今、私達がよく目にする茶道は「わび茶」とも言います。15 世紀の後半まで、<sup>ちゃかい</sup>茶会では中国から伝わった<sup>こうか どうぐ</sup>高価な道具が使用されていましたが、茶人の<sup>むらたじゅこう</sup>村田珠光が質素な道具を茶道に取り入れて以来、**それが** \*次第に茶道の主流となり千利休という茶人が「わび茶」を<sup>かんせい</sup>完成させました。

「わび茶」の<sup>せいしん</sup>精神は、不必要なものを全て捨て、シンプルさを大切にすることです。  
<sup>りきゅう こうか どうぐ</sup>利休は高価な道具は使わずに、「わび茶」にあうような<sup>そぼく どうぐ</sup>素朴な道具を好んで使用したのみならず、自らデザインして製作したりもしました。そして、茶室の大きさも畳二枚分の大きさにした上に、<sup>むだ ようそ</sup>無駄な要素をできる限り排除しようとししました。そして、お茶をたてる人と飲む人の心の交流を大切にしようとしたのです。

利休はその時の<sup>けんりよくしゃ</sup>権力者であった豊臣秀吉によって<sup>せつぷく めい</sup>切腹を命じられて 69 歳で命を落とします。利休が<sup>せつぷく</sup>切腹を命じられた理由はよく分かっていません。しかし、<sup>ひでよし</sup>秀吉は権力者<sup>けんりよくしゃ</sup>だけあって派手なことが好きで、<sup>ごうか</sup>豪華な黄金の<sup>ちゃしつ</sup>茶室を作ったりして利休のわびの<sup>せいしん</sup>精神と対立したことが原因ではないかとも言われています。けれども、**その真相 \*\***は今日でも分かっていません。利休の死の原因はさておき、彼の死後、利休のわびの精

神は弟子や子供達に受け継がれ、その後は彼らが家元になり、この世襲<sup>せしゅう</sup>の家柄<sup>いえがら</sup>を通して、その精神<sup>せいしん</sup>は代々伝えられて、今も日本の文化の大切な精神<sup>せいしん</sup>の一つとして残っています。

単語リスト：

原産地（げんさんち）	Nguồn gốc, nơi xuất xứ	高価（こうか）	Đắt, giá cao
禅僧（ぜんそう）	Thiền sư	主流（しゅりゅう）	Trào lưu, thịnh hành
苗木（なえぎ）	Cây giống	素朴な（そぼくな）	Mộc mạc, chất phác
貴重（きちょう）	Quý báu, đáng quý	切腹（せつぷく）	Nghi thức Seppuku (mổ bụng tự sát)
薬用（やくよう）	Dược liệu	黄金（おうごん）	Vàng, tiền vàng
栽培（さいばい）	Trồng trọt	世襲（せしゅう）	Kế thừa, cha truyền con nối
徐々に（じょじょに）	Dần dần, chậm chậm		